

短 報

宮ヶ瀬遺跡から出土したニホンオオカミの下顎骨標本について

A Note on the Mandible of the Japanese Wolf, *Canis lupus hodophilax* Temminck,
Excavated from Miyagase Remains, Kanagawa Prefecture

中村 一恵

神奈川県立生命の星・地球博物館

Kazue NAKAMURA

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa, 250-0031, Japan

Key words: A newly discovered specimen, Japanese wolf

I. はじめに

ニホンオオカミまたはホンオオカミ (*Canis lupus hodophilax* Temminck) は本州・四国・九州に生息していたが、現在は生息を裏付ける情報はなく、絶滅種にランクされている(日本哺乳類学会,1997)。これまで神奈川県丹沢周辺から23例のニホンオオカミの標本が知られ、最後の記録は明治26(1893)年である(中村,1998)。

今回、新たな資料として東丹沢産のニホンオオカミの下顎骨の一部が宮ヶ瀬遺跡群から出土し(かながわ考古学財団,1995)、西本(1995)により本種と同定された。しかしながら、西本(1995)の報告では「ニホンオオカミ」という和名のみで記録であり、計測値はなく、オオカミと同定した根拠は示されていない。そこで、県立埋蔵文化財センター所蔵の標本(以下、宮ヶ瀬標本と呼ぶ)を計測して再同定を行なった。その際の比較には厚木市七沢産ニホンオオカミ標本1個体(中村昭氏所蔵)の計測値と既報の丹沢産資料(直良,1965)を用いた。

II. 資料および調査方法

宮ヶ瀬標本は宮ヶ瀬遺跡群のうち馬場(No.6)遺跡から出土した。この標本は江戸時代のもので、産地は愛甲郡清川村大字宮ヶ瀬である(かながわ考古学財団,1995)。宮ヶ瀬標本の比較標本として厚木市七沢産のニホンオオカミの下顎骨を用いた。この標本は頭蓋骨と左右の下顎骨の揃ったもので、小原(1990)によれば、雄成獣のもので推定され、安政2(1855)年に同所で捕獲された2頭のうちの1頭と考えられている。

宮ヶ瀬標本は、西本(1995)の記載通り、犬歯(C)、第4小臼歯(P4)、第1大臼歯(M1)、第2大臼歯(M2)だけが残されている左下顎骨である(図1)。これら4本の歯のサイズと下顎体高(2)および下顎体厚について計測した。計測法は茂原(1986)に準拠した。下顎体高(2)は第1大臼歯(M1)中央における下顎体の高さであり、下顎体厚は第1大臼歯(M1)中央における下顎体の最大厚である(茂原,1986)。ここでは、これらの

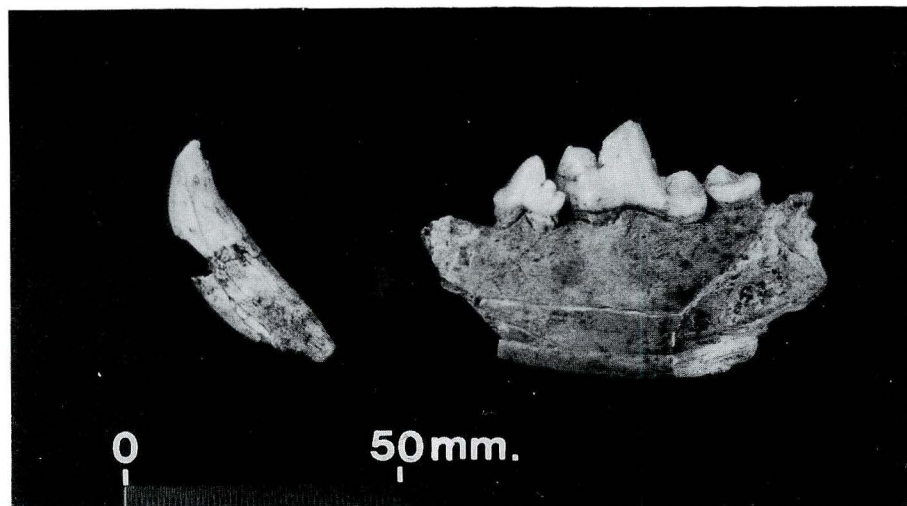


図1. 宮ヶ瀬遺跡群から出土した江戸時代オオカミの左下顎標本(頰側). 埋蔵文化財センター所蔵.

表1 ニホンオオカミ *Canis lupus hodophilax* と宮ヶ瀬遺跡出土イヌ属 *Canis* sp. の下顎計測値比較 (単位mm)

No.	産地	性	C		P 4		M 1		M 2		mbH (M1)	mbTh (M1)
			m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l	m-d	b-l		
1.	厚木市七沢	?♂	L12.42	8.98	13.71	6.85	26.50	9.67	9.87	6.68	27.92	12.25
2.	丹沢札掛	♂	12.6	8.5	14.3	7.3	26.4	9.9	—	—	28.5	12.7
3.	秦野市水無川中流	♂	13.5	8.5	12.8	6.9	24.7	9.0	8.0	7.2	28.1	11.7
4.	秦野市水無川流域	♂	12.9	8.4	12.8	6.8	24.9	9.1	9.8	7.4	27.9	12.5
5.	秦野市	?♂	L14.8	8.8	14.6	7.7	27.3	10.2	10.2	7.9	28.3	13.1
M±SD			m-d	13.24±0.96	13.64±0.83	25.96±1.12	9.47±0.99	28.14±0.26	12.45±0.52			
			b-l	8.63±0.24	7.11±0.38	9.67±0.52	7.30±0.50					

	丹沢宮ヶ瀬	?♂	L12.84	8.31	12.55	6.41	26.25	9.29	9.86	7.67	28.68	11.92

No. 1は筆者, No. 2~5は直良(1965)による計測. L:左下顎骨を示す.

計測部をそれぞれmbH (M1)、mbTh (M1)と略記する。

なご援助をいただき、かつ適切な助言をいただいた。以上の方々に衷心より御礼申し上げる。

III. 結果とまとめ

宮ヶ瀬標本とニホンオオカミの下顎歯およびmbH (M1)とmbTh (M1)の計測値を表1に示す。宮ヶ瀬標本の各部位のすべての計測値は95%棄却域に含まれ、西本(1995)の同定通り、本標本は改めてニホンオオカミと判定された。なお、西本(1995)によれば、江戸時代の都市部の遺跡で多く出土するイヌの遺体は馬場(No.6)遺跡からは出土していない。

今回、本標本がニホンオオカミと判定されたことで、江戸~明治期の神奈川県産ニホンオオカミの標本数は24例となった。

IV. 謝辞

神奈川県文化財保護課の鈴木次郎氏ならびに県立埋蔵文化センターの大上周三氏と小田貞宏氏は標本閲覧の便宜をはかって下さり、発表の機会を与えて下さった。前報(中村,1998)に引き続き、県立生命の星・地球博物館学芸員の佐藤武宏氏には資料の統計学上の処理で多大

V. 引用文献

- かながわ考古学財団, 1995. 宮ヶ瀬遺跡群V, 馬場遺跡 (No.6). かながわ考古学財団調査報告4, 792pp. 神奈川県文化財協会, 横浜市.
- 中村一恵, 1998. ニホンオオカミの分類に関する生物地理学的視点. 神奈川博研報 (自然科学), (27): 49-60.
- 直良信夫, 1965. 日本産狼の研究. 290pp. 校倉書房, 東京.
- 日本哺乳類学会, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 279pp. 文一総合出版, 東京.
- 西本豊弘, 1995. 馬場 (No.6) 遺跡出土の動物遺体. 宮ヶ瀬遺跡群V, 馬場遺跡 (No.6). かながわ考古学財団調査報告4, pp. 776-777.
- 小原巖, 1990. 神奈川県厚木市および愛甲郡清川村の民家に保存されているニホンオオカミの頭骨. 神奈川自然誌資料, (11): 53-56.
- 茂原信生, 1986. 東京大学総合研究資料館所蔵長谷部言人博士収集イヌ科動物資料カタログ. 東京大学総合研究資料館標本資料報告, (13): 1-185.

(受付: 1998年11月26日, 受理: 1998年12月3日)